

生井利幸先生、

今日は、次の土曜日を待たずしてレポートを提出させて
いただきたく、ポストに入れさせていただきました。

先日いただいた講義から想像し、私は偉大なもの（鍵）を
授かったのだ、と思ったことと、銀座書齋へ通じる階段と、
銀座書齋と、弟子の5人（現在、清掃活動を行っている弟子）の
それらの存在に大きなものを感じ、この見たものを、
急いで先生にお伝えしなければ！と感じております。

生井利幸先生から、物凄く偉大なるもの（鍵）を授けられた、
と思い、そのことに対して、お伝えする（お返事する）までに、
土曜まで待てない、と思い、感じたままに書きました。

もしも力がある、土曜日までに、読んでいただくため、
お時間を割いていただくことが可能でしたら、
目を通していただけませんか。
よろしくお願い致します。

2019年10月9日水曜日 5:51 pm
英語道弟子課程 弟子 H.K.

2019年9月26日(木)

国際教養塾 「神学概論」, および,

2019年9月28日(土)

英語道弟子課程 "Introduction to the Bible" (聖書入門)

に於いて 賜与していただいた講義、「天の国の鍵」について、

想像し、感じ、考えたこと。

本リポート作成日: 2019年10月6日 日曜日

提出日: 2019年10月9日 水曜日

英語道弟子課程 弟子: H.K.

2019年9月26日(木)、国際教養塾「神学概論」、および、

2019年9月28日(土)、英語道弟子課程、「Introduction to the Bible」(聖書入門)にて
見与された講義、「天の国の鍵」について、想像、感じ、考えたこと。

- ・ 天国の鍵をいくつも渡された Peter には、教会が建てられ、Peter はローマ・カトリック教会のローマ教皇となった。
- ・ イエス・キリスト様は、一本の鍵ではなく、複数の鍵を Peter に授けられた。

天国の鍵って何だろう？と最初に思ったとき、狭き門を通っていかないと天国には辿り着けないと想像された。

なぜ鍵が一本ではなく複数だったのか。

狭き門がたくさんあるから、大きな門には大きな鍵、でもその鍵で次に出てくる小さな門は開けられない。

鍵を開けるには、開けられる自分にならなければならぬ。

自己中心的なエゴと固定観念と雑念と邪念と邪心を持って、地域的要害に浸かっていると、捨てられないものを一杯持っていると、鍵を開けるのは至難の業、なんだと思う。

聖書に出てくる「鍵」を通して、何を目指すべきか、という考え方も教えるを受けているように思うが、私が受け取った鍵は、
実際の鍵、(Peter も、実際の鍵を受け取った)

本当に使える鍵。そして、その鍵は、実際に、狭く存在している門を開けるための鍵！銀座書斎、入居ビルの1階の扉は、誰もがくぐれるわけではない。行くと決意し、心を清めようと努力するつもりでないと、通してもらえない。

最初は、緊急時用の鍵であつたので、所持のみで、実際の登場シーンが出てこないと思った。状況の変化があり、その鍵は緊急時用ではなくなった。本人の意向によって、使用可能となった。

あまり使わないようにしなさいと始めは思っていたが、「使わなさい！」と思った。使うのは、いつ？先生がご不在のとき。先生がいない時に、何をやるのか？先生がいる、いないに関わらず、自分自身の正しい行動は変わらずにあるべきだし、行い続けるべきだと思う。だから、何を行おうのか？というと、清く、正しい行動を行おうのだ、と思った。それを行える、鍵。大きな喜びに満ち溢れた鍵だ。鍵のおかげで、素晴らしい行いをする事ができるのだと思った。

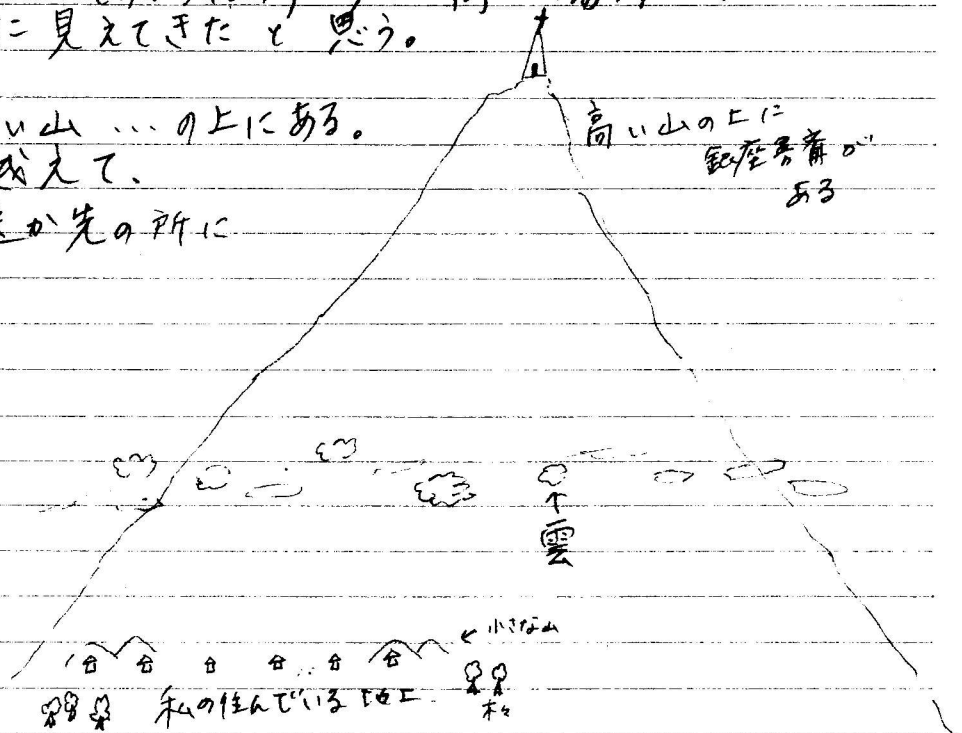
No. 2
Date
狭い門を入ったら、その道自体を磨いて清らかにし続ける必要があるのと同時に、自分自身も磨いて、清らかにしていかなければならない。

そもそも塵である自分なのだから、その自分を通していただけるのだから、感謝をしなければ"ならない。(実行として)

その道を、先生がいないときでも一人で通れるように、と、そして、実際に善き行いをするように、と、1階の狭い門を開けるための鍵を授かったのだと思った。

最近、更に狭くなった、銀座書斎。「奥の聖域」の入口は、その先に天の国があるとうかがえた。狭い門は実際にたくさんある、ということが見た気がした。細くて狭い道がずっと続くように見え、銀座書斎が、先日、先生に言われたように、天に向かっているように思えた。どのような所よりも高い場所に、銀座書斎があるように見えてきたと思う。

雲を越えるほどの高い山...の上にある。
実際は、その山も越えて、
地球も越えた、遂に先の所に
存在すると思う。



でも、鍵を授けて、想像すること、考えることは、これだけで良いのだろうか。とも思う。

9月28日(土)に受講した聖書入門で、間違って聞き取った所が
手にあることがわかった。

People are lifted through my church.

Peter, you have the keys of it.

のところで、「人々は、わたしの教会を通じ、引き上げられる。
ペテロ、あなたはその教会の鍵を持っている。」
の、「人々」(people)という単語だ。

People だとわかった今、はっきりすることは、イエス・キリスト様が
建てられた教会は、ローマカトリック教会で、天の国のことで、
その最高のところの教皇にペテロはなったのだ、ということだ。
自分を改善し、高めたいと望む者は、その天の国で救われる。
(引き上げられる)。ローマカトリック教会は、全ての人類を救って
くれるところ、神のいるところ、なのだと思った。

私が授かった鍵によって、生井利幸先生のご指導を受けて、
その受けたことを、実際に、清らかで、正しい行動に移し、それを
継続することは、人類を救う行いとなっている、と思った。
銀座書齋が天の国なのだ。人々の為の、弟子が、今、存在している
... すばらしいお役目を、いや... 偉大なお役目を授かっているのでは
ないかと感じ、銀座書齋が、眩しく、白く、光り輝く場所に見え、
five disciples of a few に授かった役目の大きさに
恐怖も感じるし、大きなものを、よっているのだと見え、きて、
身が震えるほど... すごいものを授かっていると感じた。

鍵を授けられることになった当初の先生との会話では、
全く、想像できなかったことであり、想像を超える... ものを
受け取ったのだ、と思った。